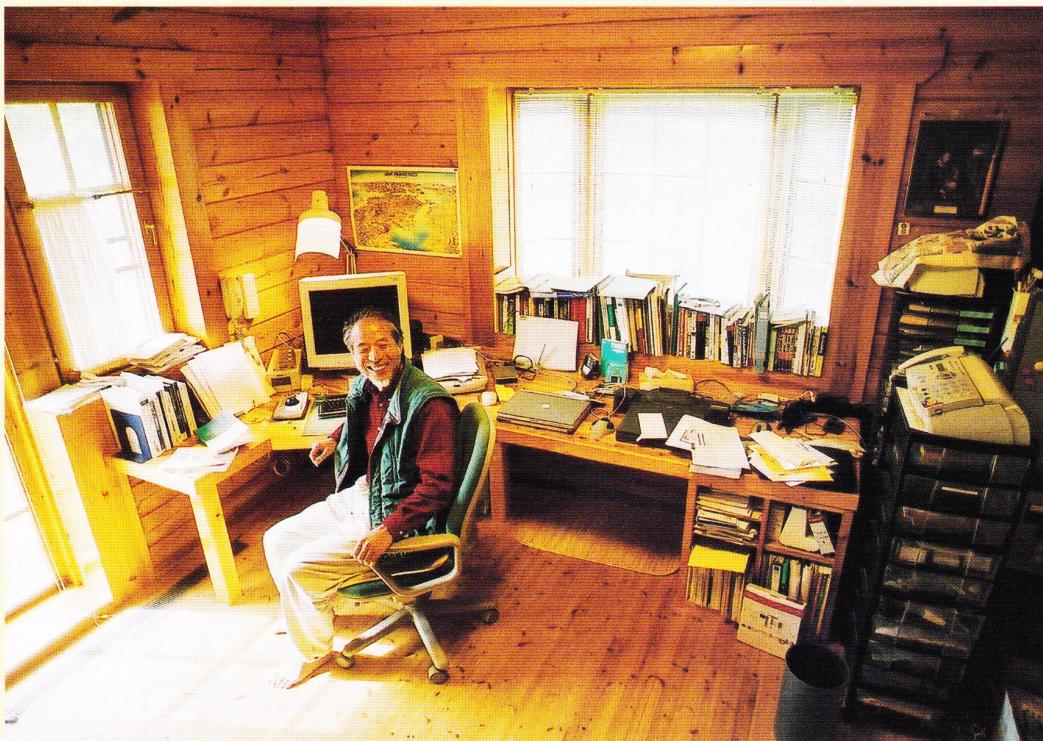


太陽光発電・パッシブソーラー! 伝統S型瓦など、 エコ・ホームの工夫存分に



未来実験住宅



上／淡路島伝統S型瓦。S型瓦による葺きあげは、7寸と8寸という急勾配の屋根に良く似合う。しかも瓦と野地板の間に出来た空間は断熱層の役目を果たし、日光で暖められた空気を上方に逃がしてくれる。ここでは濃い色15%、中間色50%、薄い色35%の比率でランダムに配色することで地中海風の開放的な明るさを演出している。写真左に見えるのは、小屋裏の熱気を排出するための小型光発電パネル。

中左／屋根に設けられた集熱パネル。屋根ガラス集熱面で暖めた空気をダクトで床下土間コンクリートに誘導・蓄熱し、この熱を床暖房として利用。さらに床に開けた吹き出し口から各部に暖かい空気を送り込み、住宅全体を均一に暖めるパッシブソーラー(OMソーラー)の手法を活用している。もちろん風呂、シャワー、台所で充分な量の給湯が可能だ。

中右／太陽の光エネルギーを直接電気エネルギーに変換する太陽電池(1枚100W)を敷地前面の法面に

30枚並べて行う太陽光発電システム。

年間で3200kWの電力生産を見込み、余剰電力を関西電力に売電する仕組み。

下／Y氏の書斎。コンピューターLANでは、12ポートのハブを設置し各部屋をワークステーション。

X端末、PCなどでネットワークするインテリジェントハウス。